令和4年度 倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会

日 時　令和4年 11 月 14 日(月)午後2時 00 分～
場 所　倉吉市役所本庁舎大会議室

3. 開会	
事務局	(開会) 定住自立圏ビジョン懇談会の要綱、第 5 条の規定によりまして、3 番ですけども会長・副会長選任ということになっております。規定により、委員さんの中から互選になっております。互選となっておりますがいかがいたしましょうか。 (事務局一任の声) それでは会長・副会長両名よろしくお願いします。それでは第 6 条の規定に基づきまして、以降の進行につきましては会長にお願いすることになっていますので、よろしくお願いします。
4. 会長挨拶	
会長	改めましてどうぞよろしくお願いします。会長を務めさせていただきます。ちょっと私なりに定住自立圏について復習をさせていただきたいと思います。この会そのものは平成 20 年に総務省が定住自立圏共生の推進要綱というものを作りまして、それに基づいて全国で中核都市とその周りの町村のネットワークを通じて、都市として自立する、そういう圏域を作ろうという、こういうことで始まりました。そしてその取り組みに、それぞれが 5 年計画を作って各事業を推進しなさいということでございます。ここの中部圏域は、倉吉市を中核都市として周辺 4 町、今日来ていただいている琴浦、三朝、湯梨浜、北栄の 4 町ということで、そういう圏域を作ろうということで、平成 22 年から 5 年間第 1 次計画、そして第 2 次、現在は令和2年から始まった 3 次計画の、5 年計画の中の 3 年目。ちょうど真ん中に当たります。中身はどういうことかというと、大きく 3 つの分野がありまして、一つは生活機能を強化しよう。一つはネットワークを強化しよう。一つは圏域のマネジメント力を強化しよう。こういう 3 つの部分がありまして、そして生活機能の強化を具体的に言うと、医療の分野とか福祉の分野とか教育とか産業とか、こういう部分を強化していく。そしてネットワークの強化とは交通インフラとか IT インフラ、そしてマネジメント力は具体的には多くの場合研修を合同でやる。こういうような事業です。その時に大きく特徴的なのは、もちろん倉吉市と4町全部で協定を結んで事業に取り組んでもよし。場合によっては、倉吉市と例えば三朝町だけで取り組ん

	でもいい。これは一つ特徴的なんです。5 年計画でネットワークを組みながら、先ほどいった 3 つのいろんな事業をやる。このメリットは何かというと、その事業をやった場合に国から交付税がいただけるというのがあり、一般財源のおよそ 80％が出ると。ここに上手に乗せると、多大なメリットになる計画になります。 　ということで、先ほど申し上げましたように現在の計画は令和 2 年から進んでいます。令和元年度に計画を作るときは、年に何回かこういう会を持ちましたが、現在は年 1 回くらい、いわば進捗状況をチェックしようというような形で、ただ進行状況といいつつも『もうちょっとこの計画をこんな風にしたらどうか』とか、あるいは『こういうのを入れたらどうか』というのがあれば、どんどん言っていただきたい。そういう趣旨の会です。ただそれと同時に、こういう市とか町の担当の部署、多くの場合企画課だと思いますが、そういうところが合同で勉強会をされまして、その勉強会の内容で今日お話をいただいて、その後進捗のところを説明していただいて皆さんからご意見をいただく。こんな会になろうかと思います。時間は 2 時から 3 時半には終わりたいと思います。限られた時間ですけども、ぜひ忌憚のないご意見、あるいはご質問いただければと思います。どうぞよろしくお願いします。 　ということで初めに復習をしました。早速ですがお手元の今日の次第、5 番に行きます。定住自立圏構想の勉強会実施報告をお願いします。
5. 定住自立圏構想同号勉強会実施報告	
事務局	私の方から定住自立圏構想合同勉強会の実施報告をさせていただきます。資料を共有いたしますのでしばらくお待ちください。 　初めに勉強会の主旨でございますが、令和 2 年の国勢調査で、鳥取県中部圏域の人口減少が一層加速していることが確認されました。特に生産年齢人口の減少が大きいということが分かっています。国においては、地域の未来予測を行うと。2030 年とか 2040 年とか、長期の未来を見据えて地域の未来予測を行うということを呼びかけているということもございまして、人口減少に歯止めをかける打ち手を講じていく必要があると、こういう課題認識のもと、1 市 4 町の行政職員が集まりまして、合同勉強会を開催いたしました。ページを捲っていただきまして、3 回に分けて合同勉強会を行っております。今年の 2 月に第 1 回目を行いまして、各市町から自由にテーマを集めたんですけども、その時には人口減少というものを要因とするテーマが多かった、となります。第 2 回目は 4 月に開催いたしまして、人口減少の要因分析。なぜ人口が減るのだろうということを勉強いたしました。第 3 回目は 7 月に行いまして、具体的に人口減少に歯止めをかける打ち手について考えるということを行いました。この 3 回の勉強会と並行して、次のスライドになりますが、地域

	の未来予測勉強会というものを開催いたしました。先ほど国の方で、地域の未来予測を行うことの呼びかけが行われていると申しましたが、この呼びかけに呼応するような形で、地域の未来予測の勉強会を行っております。元々琴浦町さんと北栄町さんと湯梨浜町さんの職員が集まって勉強会が行われていまして、この勉強会に乗っかるような感じで倉吉市と三朝町も加わるようなことをさせていただいて、勉強会を行いました。 千葉大学の先生をお招きして勉強会をしたということになります。2 回にわたりまして勉強会を行いまして、9 月と 10 月と行っております。中身についてはまた後ほど詳しく説明をさせていただきます。これからはどのような勉強をしてきたのかということをご説明いたしたいと思います。冒頭申し上げますと、勉強会を繰り返してはいるのですが、ちょっとまだ結論を出すまでには至っておりませんので、どうぞ温かい目でご覧いただけるとありがたいなと思っております。 次のスライドですが、人口の減少状況をお示ししております。東部と中部と西部を比較したものになります。赤い棒グラフが中部の人口になります。赤枠で囲っておりますが、令和 2 年の国勢調査で初めて 10 万人を割り込むという結果になっております。 次のスライドになりますが、減少の人数を表したものになります。増減ですね。増えた人数と減った人数の差し引きですが、この赤色が中部地区になりますが、平成 2 年からずっとマイナスと。減少しているのが見て取れると思います。東部と西部については、平成 17 年くらいまでは増えたり減ったりということがあったんですけども、平成 22 年からは東部中部西部いずれも減少ということになっております。続いて減少率を示したものになります。東部と中部と西部、比較しますとこの赤色が中部ですが、東部西部と比較しても一番減少率が大きいことが分かります。令和 2 年で約 5%、5 年間で 5%減少していることが見て取れます。 続いてのスライドになります。人口を 3 区分ごとになります。0 才から 14 才までの年少人口、15 才から 64 才の生産年齢人口、65 才以上の老年人口ごとに分けたものになります。真ん中に赤い線が 1 本入っていますが、これがプラスマイナス 0 の数字になります。この線よりも下にあると人口が減少していると。上にあると増加していると見ます。年少人口と生産年齢人口は赤線よりも下でございますので、人口が減少している。老年人口は逆に線の上にありますので、人口が増加しているということになります。特にこの下の一覧表の赤枠で囲っているところでございますが、中部地区の生産年齢人口の減少が大きいことが分かります。おおよそ 5 年間で 10%、生産年齢人口が減少しているということがこのグラフから読み取れるかと思います。この生産年

	齢人口の人口減少が低いんですけども、次のスライドですが、さらに年齢の区分を分けてみますと、25 才から 34 才の減少率が大きいことが分かります。この中の数字は増減率ですけども、赤の四角で囲ったところ、25 才から 34 才、この平成 27 年と令和 2 年の調査を見ますと、マイナス 18%、20%弱くらい人口が減少しております。ここの 25 才から 34 才の減少率が特に大きいということが分かりました。 　続いて社会増減、人がどのように移動しているのかというグラフといいますか、表になります。令和 3 年の社会増減ですけども、この表の見方は、例えば倉吉市から北栄町に 133 人行っていて、逆に北栄町から倉吉市には 71 人引っ越していると。差し引きすると倉吉市から北栄町に 62 人移動しているというような見方をしていきます。この赤い線がプラスマイナスを指したところですけども、倉吉市からは北栄町・湯梨浜町に人が多く流れていて、琴浦町からは倉吉市・湯梨浜町に流れているというような見方をしていきます。圏域としては北栄町・湯梨浜町に人が多く集まっているようなことになっています。圏域の外と比較しますと、鳥取と米子で見ますと鳥取ですとプラスマイナス 9 人の方が鳥取市の方に移動しているということが分かります。一方で米子市の方を見ますと、66 人米子市の方に転出をしておりまして、東部よりも西部に人口が多く流れているということが分かります。勉強会の中では琴浦町からの発表があったんですけど、琴浦町で特に西部への人口の移動が大きいという発表がありました。右下に県外の人数も乗せております。中部圏域から県外に移動するプラスマイナスでいいますと、232 人の方が県外に転出をしているということが分かります。 　ここまで社会増減を見てみましたが、自然増減の方を見ていきます。自然増減は出生率というもので、生まれてくる赤ちゃんがどれくらいいるかというのを見るんですけども、このグラフを見ますと平成 15 年から 19 年を底といたしまして、そこからは若干上昇傾向にあります。合計特殊出生率は上昇傾向というふうになっています。 　次のスライドですが、東部中部西部を比較しますと、2019 年の数字でちょっと古いんですけども、オレンジ色が中部です。1.85 という数字でして、東部と西部と比較をしても合計特殊出生率は高いと。比較的子どもが生まれているというような数字が見て取れます。ここのところを赤ちゃんが生まれていると素直に受け止めていいのかどうか、ということを勉強会の中で深掘りしまして、研究したところ、必ずしもそうではないということが分かってきました。具体的には合計特殊出生率の計算式は、分母が 15 才から 49 才の女性。分子が出生数ということになるんですけども、率ですので分母が少なくなると率が上がるというからくりになっております。ここを見ますと、中部圏域の 20 才から 34

	才の人口の増減率、ここの赤い四角のところを見ますと、マイナス 10%から20%くらい人口が減少しているということが分かります。ここの灰色に色抜きしたところが団塊ジュニア世代の、人口がすごく多い層なんですけども、ここの多い層が抜けることで、分母が少なくなって率が押し上げられたということが、ここの表から分かるというということになります。ですので先ほどのスライドに戻りますと、合計特殊出生率が東部西部と比較して高い数字は出ているけれども、必ずしもこの結果をもって子どもの数が多いということにはならないということが、勉強会の中で明らかになりました。先ほど説明しました計算式がこういったことになります。分母の女性のこの点線のところがいなくなったために率が上がって、合計特殊出生率が押し上げられたということになっています。これまでの人口減少の要因をチャートで分析しますと、このようなものになってきます。人口減少は大きく、自然動態と社会動態に分かれて、自然動態では子どもが沢山生まれないという課題になっています。自然動態は出生と死亡とに分かれますが、出生については少子化であったり合計特殊出生率の上昇というのが要因になるんですけども、合計特殊出生率は分母の減少によって率が引き上げられているということが分かっています。社会動態については、主にこのライフステージの変化によって社会動態が動くわけですけども、進学・就職・結婚・住宅、このようなライフステージごとに一つ一つ見ていく必要があると。進学のところでは、高校卒業生の約 5 割が県外に転出をしている現状があります。就職・転勤のタイミングで大学卒業をした後にUターンする人は大体 3 割戻ってきています。地元大学、鳥取短期大学と看護大学でございますが、非常に優秀でして、県内の就職が大体 8 割。看護大学に至っては 9 割くらいの方が就職してくださっています。都市部、鳥取米子に就職される方が中部圏域の方が多いというような現状分析になっています。結婚・住宅のところでは、住宅を持たれる際に湯梨浜町や北栄町、北栄町の中でも北条地区に家を持たれる方が多いということが分かっています。また鳥取米子に出られるというような現状になっています。この要因分析一つ一つに打ち手を考えていく必要があるということになります。出生のところの打ち手につきましては、18 ページ目のスライドになりますけども、出生減を食い止めるというところで、一言で言えば若者が子育てしたくなる町づくりをしていく必要があるということで、例えば婚活の支援であったり、子育て負担の軽減、また子どもを育てることに対するインセンティブ、何か特典があるですとか、そういったことが有効ではないだろうかということを考えています。 　次に社会動態の転入のところですが、ここ横ばいで推移をしているところなんですけども、勉強会で一つ例が挙がったのが、湯梨浜町の松崎地区にゲストハウスがございまして、ここの紹介がありました。どういった建物かとい

	いますと、ゲストハウスがありまして、そこに集落の元気なお母様方が集まっていろんなイベントをされていると。そこでいろんな交流が生まれることで、移住者が興味や関心を持って引っ越してきているような好事例のご紹介が勉強会の中でありました。移住者が移住先を決めるに当たっては、その地域の寛容さであったり包容力、また社交性といったような、こういった要素が求められているのではないかということが勉強会で指摘がありました。やりたいことが出来るとか、受け入れられるコミュニティといったものが必要だろうということでございます。 続いて転出抑制のところになってきますけども、進学、高校卒業生の 5 割が転出をするという現状なんですけども、これに対しての打ち手なんですが、具体的な議論は勉強会では深まらなかったんですが、例えばサテライトキャンパスであったりだとかオンライン教育、こういった場があればこの転出の抑制、一定程度の効果があるのではないかということが考えられます。 続いて就職・転勤・転職。このあたりの就職に係るところでございます。今は大学卒業した後 U ターンされる方は 3 割なんですけど、これを引き上げていくですとか、この圏域内で就職していただくというようなところなんですが、これに対する打ち手として、仕事の付加価値を高めるというのが一番だろうという指摘がありました。またそもそも民間企業が情報発信できていないという指摘もありまして、ハローワークへの登録だけではなかなか情報が引っかからないと。マイナビですとかリクナビですとか、そういった大手のサイトから就職を探す現状がありますので、そういったところへのサイトへの登録を支援するための取り組みが必要ではないかということがありました。 2 点目が、女性が働きやすい環境を作っていくべきではないだろうかということがありました。実際にこの長野県の例も紹介されたんですけども、女性が就職しやすいような支援員を配置することによって、女性が地元に就職しやすくなるというか、残りやすくなるというような事例の紹介もありました。 続いて全国のデータになってくるんですけども、就職先をどういう理由で選ぶかということの、マイナビの調査ですけども、アンケート調査の上位は『安定している』『やりたい仕事・職種である』『給料がいい』『働きがいがある』『これから伸びそう』というような、こういったところを重視して就職先を若者は選んでいるということが、マイナビの調査では結果が出ています。もう一つ別の角度から調べてみまして、転職っていう選択肢もあるということで、転職ということを角度を変えて調べてみました。転職する理由、こちらが転職動向調査という調査からの数字なんですけども、転職する理由の第 1 位は『仕事内容に不満がある』次が『給料が低い』『人間関係が悪い』『将来性・安定性に不安がある』『休日や残業時間などの待遇に不満がある』というような内容が転

	職する理由になっています。ずっと右側の数が大変少ないところ、ここ字が見えないんですけど、『地元に帰りたかった』というような回答もわずか 5%あります。ここの 5%というのを、例えば地元への愛着だとか、つながりをずっと持ち続けることで、今 5%しかいないので、まだまだ伸びしろがあるんじゃないだろうかというような可能性を感じるような結果になっています。 続いて転職先を決定する理由なんですが、同じ調査の結果ですけども、転職先を決定する理由は『希望の勤務地である』というのが第 1 位で、次が『生活にゆとりが出来る』というようなものが重視されるという結果になっています。『希望の勤務地である』というところに活路があるのではないかということを考えているところでございます。例えば地元に戻りたいですとか、一度関係人口といいますか、関係を持ったときにすごくいい場所だったからそこに住みたいとか、そういった希望の勤務地に選ばれることで、人口減を抑制することが出来るのではないかと。その際に、この圏域での生活のゆとりですとか、暮らしやすさというものを最大化していくことで、この希望の勤務地になることが出来るのではないだろうかということを考えました。 まとめますと、都会に進学した若者が卒業後に U ターンする割合は 3 割になっています。若者が就職する会社は安定してやりがいのある仕事で給料がよく働きがいがあってこれから伸びそうな会社が人気があります。こういった会社が鳥取県の中部に揃っているかというと、必ずしも期待に添える会社は限られるのかなという現状がある中で、転職というところも視野に入れながら、希望の勤務地、また生活にゆとりのある、このあたりを最大化することで、U ターンの方を増やせるんじゃないかということを考えております。そのためには、地元への愛着やつながりを強化するということ。また都市部との関係人口を増やすということで、選んでもらう場所になるとことが必要なのではないかと。例えばですけども、鳥取短期大学と看護大学さんと連携をしながら、大学生による高齢者スマホ教室というものを行っています。また大学生と一緒に『大学生応援・倉吉駅周辺カフェマップづくり』なんかもやっています。またコミュニティセンターと連携をした事業をやったりしています。こういった取り組みを通じて大学生が地元への愛着というものを深めていくということで、そのまま地元に就職される場合もあるでしょうし、いったん県外に出られたとしても、その後関係を継続して転職という形で戻ってくるということもあり得るだろうということを手段として有効ではないかと考えました。 最後の住宅のところの課題に対する打ち手でございます。住宅に対する打ち手というのは、ここで暮らしたい・住みたいという付加価値が重要でございまして、勉強会の中で出ましたのは、特に周辺町にそもそも住む場所がないと。賃貸で住む場所がないという指摘がありました。倉吉の駅周辺ですと

	か市街地にはアパートがあるんですが、外れといいますか山の方に行きますとなかなかなかったりして、そもそもそこが人口減少の原因になっているんじゃないかという指摘がありました。その際に空き家を活用して住まいを確保していくというのが有効なのではないかという指摘がありました。家を建てる際の 3 要素が 1. 予算　2. 建物の性能　3. 周辺の住環境となるんですけど、この予算のところを少し深掘りして考えますと、1 市 4 町でいろんな支援制度を設けてまして、家を建てる際の補助があったりですとか、若者が建てる場合の補助ですとか、そういった補助が準備されています。こういった支援は多ければ多いほど家は建てやすくなるのかなと思っています。 　続いてこれは本当に参考として見ていただけたらと思うんですけども、東部と西部に人口が流れていると。特に西部に流れているわけですけども、予算というところではどれくらいの影響があるのかというところで見ますと、土地の値段を一覧にしたものですけど、鳥取県内で一番土地が高いのは鳥取の駅前で、1 平方メートルあたり 12 万 6 千円。公示価格ですので実際の売買価格はこれより高くなるかなと思いますが一番高いですと。その後博物館の周辺ですとかわらべ館の周辺が高いと。で米子が入ってきてということになります。倉吉で一番高いのはセントパレス裏側付近の住宅地が 44,200 円で土地代が高くなっています。 　次のスライドで、倉吉の上灘町、美術館が出来るあたりが大体 39,500 円。住宅街としては非常に高いところになります。このあたりずっと見ていきますと、概ね倉吉と比べると鳥取市が大体 3 倍くらい、1.5 倍から 2 倍くらいの価格の差があるというような、それだけの差があっても東部と西部に出て行くというようなところが分かります。これは参考に『そうなんだ』という資料で見ていただけたらと思います。一方で東部と西部にこれだけ土地の値段に差があっても出て行くということなんですけども、通勤時間を調べますと、社会生活期補調査というのがありまして、通勤時間がどれくらいあるかという調査があります。鳥取県は往復 59 分、片道大体 30 分のところにほとんどの人が住んでいるということになります。この表を見ていただけると分かるんですけど、第 1 位大分県が 57 分ですので、大体どこの全国の地方も似たような数字になっていると。最下位が神奈川県の 105 分なので、この関東、東京・埼玉・千葉・神奈川というのが数字としては特異な数字になっておりまして、それ以外の地方については概ね 30 分県内のところにお住まいになられているということが分かります。ですので鳥取・米子が勤務地である方については、そちらの方に転出をされることが多いのかなということが分かります。社会動態の昼夜間比率を見ますと、倉吉市 112.2 となっておりまして、昼間の人口が夜間よりも多いことが分かっています。これは県内トップでして、倉吉市に働きに来られ

	ている方が多いことが分かります。一番少ないのは湯梨浜町で、79.6 ということで町民の方の 2 割が倉吉ないし鳥取・米子に働きに出られているということが分かります。このあたりから、逆に言えば湯梨浜町というのは若者に人気のある町になっているんじゃないかなということが分かります。これまでをまとめますと、通勤時間は 30 分以内のところに住みます。土地代が比較的安くて環境のよい場所を選ぶという傾向にありまして、中部エリアでは湯梨浜町・北栄町が人気が高いと。仕事は倉吉、住まいは湯梨浜という方が多いのかなという傾向があります。住みたい町に住みたいけれども、職場からの距離、大体 30 分県内というのが最重要で、逆に言えば住む場所をしっかり確保するということが非常に重要だということが勉強会で明らかになりました。これまでの話を打ち手としてまとめると、企業情報の発信ですとか地元の方、特に市内・県内の方に企業情報の発信をしたり暮らしやすさを発信したりすることが重要だと。またサテライトオフィスやテレワークを活用した環境整備、『転職なき移住』とか言われますけども、こういったものを整備していく。また、地元でテレワークしながら都市部企業に就職するということも推奨していくと。『転出なき就職』というものも考えていく必要があるんじゃないかと。若者が働きやすい企業を増やしたりですとか、若者の地元への愛着を強化するような取り組み、こういったものが取り組みとしては必要なのではないかというような勉強会としてのまとめをさせていただきました。長くなって恐縮なんですけども、こちらが勉強会での報告になります。 　もう一つ資料がありまして、未来カルテというものがあるんですけども。こちら、これは本当にさっと説明させていただきます。この未来カルテは 2050 年に鳥取中部がどういうことになっているのかというものを千葉大学の先生が予想してくださったものになります。総人口につきましては 2020 年に 10 万人を切って 9 万 8 千人くらいだったものが、2050 年には 6 万 8 千人まで人口が減ってくるという予測になっています。このグラフで、90 才以上の女性がぐっと増えていますけども、ここだけ増えているというわけではなくて、90 才以上の足し算の枠が大きいのでぐっと増えているように見えますけども、高齢者が増えてくるということは間違いないです。続いて産業構造がどのように変わるかというところでございます。2020 年と 2050 年を比較しますと、一番大きく変わるのは製造業になります。製造業はこの緑色のところですが、2020 年と 2050 年と比較すると、2050 年の方がずいぶん少なくなってきます。逆に医療福祉のところ、左側の青色の枠のところですが、こちらは 2050 年にぐっと大きくなるということが予測されています。 　次のページからは、各年代ごとに分けたもの、10 年ごとに分けたものですが、働く人の人数のピークが 2020 年、45 才から 49 才が一番多いですけど

	も、2030 年には 55 才から 59 才が一番多くなり、2040 年には 60 才から 64 才が一番多くなってきて、2050 年にはだんだんその山のまま小さくなっていくということになります。60 才から 64 才が働く人数として一番多いということになってきます。各分野ごとの働く人数がどのように変わっていくかということなんですけども、左下の建設業を見ますと 2020 年、3,800 人ほどいる従業員が 2050 年には 1,178 人まで減少することが予測されています。大分建設業が少なくなってくるということが分かります。逆に次のページの左下、医療・福祉のところですが、8,269 人が 7,100 人ということでほぼ横ばいということになります。教育・学習支援事業につきましても、若干減少はするもののほぼ横ばいと。製造業につきましてはかなりの右肩下がりになってくるということが予測されています。公務員についてはほぼ横ばいということになっています。宿泊業・飲食サービス業についても右肩下がりになっています。その他いろいろ分野ごとに分析してくださっているんですけど、お読みとりいただけたらと思っております。 　勉強会の中ではワークショップもやったんですけど、職員の中からは『産業振興が重要だと思った』『公共施設の共有化が必要だと思った』ですとか、『空き家を利用してシェアハウスをしたりグループホームを作ってはどうか』といったアイデアが出されました。すみません、説明が大分長くなってしまいましたが、合同勉強会での内容を説明させていただきました。以上で終わります。
会長	はい、ありがとうございます。皆さんの方からは今の説明を聞いて何か質問等ありますでしょうか。
委員	ちょっと教えていただきたいんですけども。今までいろんな説明があって、こういうことが原因でうまくいっていないんじゃないかということは理解できました。冒頭、会長もおっしゃったように有利な制度を活用して施策をして、どう課題を解消するかというのを進めていくのがこの懇談会であると。行政の皆さんが例を作り懇談をし、行政がそれぞれ年度予算に反映させて施策をしていくということであるとしたときに、今日この時点は、皆さんがお勉強されたことをお聞きして我々は何をすればいいのか、そこが疑問なんですけども。早く打つ手を教えてよというのが率直な意見であります。倉吉商工会議所は 11 月に役員改選をして会頭が代わり、倉吉の人口をどうしたら増やせるのか一緒になって考えようというふうに取り組みを始めたところでありますので、この有利な制度を活用したことを会議所としても乗りたいと思い、より積極的に、よりポジティブに皆さんと進めていきたいなと思い、具体的な方策を打ち出して欲しいなと思います。以上です。
事務局	ありがとうございます。思いは同じでして、打ち手をなんとか考えたいという

	風に思っておりますが、冒頭申し上げたとおり、勉強会までしか出来ていなくて、打ち手というものが十分煮詰まっていないという状況でございます。本日皆様からいろんなご意見をお伺いしながら、行政・1 市 4 町で打ち手を考えていきたいという風に思っています。未来カルテの方では、各 1 市 4 町の行政改革の担当者が集まって具体的にどういう打ち手が考えられるかというところも議論していくようにしていますので、そういったところと、また企画サイドでも 1 市 4 町集まりながらどういう打ち手が打てるのかということを考えていきたいと思います。
6. 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの取組状況	
会長	それでは先へ進みます。今のビジョン構想がどんな対応だったか説明してもらいたいと思います。皆さんの次第の 6 番目、鳥取県中部定住自立圏ビジョンの取組状況について、聞きたいことがあればまた。
事務局	失礼します。私の方からは鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの取組状況についてということで、資料の 3 番 4 番 5 番を使って説明させていただきます。 資料の 3 番になりますが、こちら鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンにつきましては、医療であったり福祉、教育、産業振興といったような、政策分野ごとに成果指標というものが設定されておりまして、それを 5 年間経年で見る資料になります。今回は令和 3 年度の実績をとりまとめましたので、いくつか抜粋してご紹介させていただきます。 まず医療につきまして、救急医療の充実ということで、初期救急医療施設の利用実数ということで、目標 1,500 人に対して 1,334 名ということで、およそ例年通り利用があったということです。 続きまして初期救急医療施設の利用者数 0 人ということで、こちらはインフルエンザなどでパンデミックが起こったときに施設を開いて、そこで受付等対応できるということの数字になっておりまして、こちらは開設がされていないということで 0 となっております。 続いて思春期保健対策の推進ということで、20 才未満の人工妊娠中絶率ということで、令和 3 年度はまだ数字が出ていないんですが、昨年度、令和 2 年度の 3.7%ということで目標達成していると。こちらの方がコロナ禍ということで、妊娠の届けであったり出生の届けであったりというところが例年よりも減少しているというところで%も下がっていると考えられます。 続きまして福祉の分野です。子育て支援体制の整備及び充実というところの項目ですが、病児・病後児保育の利用者数というところで、700 名の目標に対して 556 名の利用がございました。休日保育の利用者数については、昨年よりも 50 名ほど増えまして 414 名の利用がありました。こちらの数字に

	つきましては、保護者の方の状況の変化によって大きく変動するものになりますので、毎年結構数字が動いているところです。 続きまして教育分野になります。体育施設の維持及び強化ということで、倉吉市営陸上競技場の公認大会の開催数ということで、令和3年度6回の目標に対して3回の目標ということですが、この度第三種公認を受けるために必要な改修を行うため使用できない期間がありました。また、7月頃に土砂災害があったことで工事の方も進んでいない状況で3回の開催にとどまっています。利用者数の方もそれにともなって1万2,394名ということで目標を下回っています。 続きまして資料3の2枚目の方に移ります。政策分野、地産地消の推進ということで『中部発！食のみやこフェスティバル』ということで、目標3万人と予定しておりますが、令和2年度3年度はコロナ禍ということで通常開催が出来ておりませんが、令和3年度におきましては代替イベントということでスタンプラリーを開催されています。応募は合計で647名になりました。 続きまして政策分野、交流・移住になります。空き家バンクの連携等による移住の促進ということで、圏域外から圏域内に移住した人数ということで、500名の目標に対して665名ということで、昨年度より20名多く移住をしてくださっています。 続きまして未婚・晩婚化解消のための取組の推進ということで、中部の1市4町の方で連携して婚活イベントの方を実施しております。婚活イベント、セミナー等の参加者同士の成婚組数というのを目標設定しておりますが、令和3年度は0件でした。ただ、令和元年度に開催したイベントに来られた方が、令和2年度にご結婚されたということで、令和3年度の調べになっております。引き続き参加された方の動向といいますか、その時に組になった方がご結婚されたかどうか、追って調査したいと思います。 成果指標については以上になります。続きまして資料の4番に移ります。こちらの方は政策分野ごとにそれぞれいろんな事業をしておりまして、令和3年度の決算額の一覧になっております。事業の数が多いので、簡単にですが抜粋して説明させていただきます。 まず教育の分野で、先ほど体育施設の機能の維持及び強化ということで、令和3年度の予算額をご覧いただきますと、4,090万6千円となっておりましたが、災害によって工事の方が進めておりませんので、297万円となっております。 続きまして産業振興の分野になります。広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進ということでいくつか事業の方がございます。こちらの方は例年行っている内容になりますが、観光推進機構さんに事業をしてもらっ

	て負担金だったりとか、後は備考の方に書いてございますが、各市町で行っている観光に関する取組の事業をこちらに掲示しております。資料 4 の 2 枚目に移りまして、一番上の鳥取中部ウォーキングリゾート推進事業ということで、こちら予算額が 313 万円としておりましたが、湯梨浜町さんのところでいきますと、新型コロナで中止になったんですけども、開催の予定で準備していたというところで発生した金額を計上しております。琴浦町さんのほうはグルメウォークの事業を実施しておられます。 続きまして地産地消のところです。こちら先ほど紹介いたしました食のみやこフェスティバルの代替イベントのスタンプラリーの予算もこちらに計上されております。合計しまして 2 億 2,600 万円くらいの事業規模で令和 3 年度の決算額となっております。決算については以上になります。 資料の 5 番の方に移らせていただきます。こちらは今ご紹介した事業の令和 4 年度、本年度の予算額の一覧になっております。ほとんどの事業が例年通りの予算となっておりますが、体育施設の機能の維持及び強化ということで、陸上競技場の工事が令和 3 年度から令和 4 年度に動いておりますので、その工事費が計上されているところです。後は例年通り予算をこちらに計上されていると思います。 すみません、簡単ですが私からは以上になります。各事業なんですけども、資料の 6 番、ちょっと分厚い A4 縦向きの冊子になっているものに、各事業の実績ですとか予定ですとかを載せておりますので、こちらも合わせてご覧いただければと思います。以上です。
会長	では今までの説明のご質問等ありましたらお願いします。はい、どうぞ。
委員	失礼します。資料の 4 ですけども、下の方、観光情報発信・セールスプロモーション強化事業でですね、令和 3 年度の予算全体が 3,600 万いくらの中で、倉吉市が少ないです。5 万 5 千円。観光案内事業負担金 5 万 5 千円が極端に少ない。令和 4 年になったらどうかというと、資料の 5 ですね。ここも全体予算 1,700 万円に対して 5 万 5 千円ということ。なぜこんなに小さい数字なんでしょうか。
事務局	すみません、後日調べて皆様に共有させていただこうと思います。この場でお答えできず申し訳ありません。
会長	他にありますでしょうか。
委員	先ほどの質問と一緒なんですけど、資料 4 の観光情報発信・セールスプロモーション強化事業のところなんですが。琴浦町が突出して 1,400 万円ですかね。資料 5 で令和 4 年度の予算がぐっと減って 510 万円になっているんですけど、令和 3 年度特にガンッと増えたという理由は一体なんでしょう。ここに書いてあるんですけど、観光マーケティングインフラ構築委託料というのが

	突出していますが、これは何のことになるんでしょうかというのと、それに対する実績というのは令和 3 年ではどうだったのかと。これだけ使ってどれだけ琴浦町に来たのかな、というのが気になりました。
事務局	琴浦町さん、聞こえましたでしょうか。資料の 4 番、観光情報発信・セールスプロモーション強化事業の、琴浦町さんの決算額が 1,400 万円余ありまして、そのうち観光マーケティングインフラ構築委託料というのが 800 万円弱あるんですけど、これの成果がどの程度あったのか、という質問でございます。
琴浦町	すみません、そのあたり担当課に聞き取りが出来ていないもので、また後ほど確認をして共有させていただいてもよろしいでしょうか。
事務局	はい。こちらの分もこちらで回答できず申し訳ないんですけども、また改めて回答させていただきます。
会長	他はありますでしょうか。はい。
委員	すみません、勉強不足で教えていただきたいんですけども。今こう質問が沢山ありました、観光のところで倉吉市さんの観光案内業務というのはどこでしょうか。資料 5 番の、令和 4 年度予算額一覧のところで。令和 3 年度と同じ額が計上されていますけども、ポップカルチャーとかのところの最後に書いてある観光案内所とはどこでしょうか。
事務局	資料の 5 の観光商品の開発強化・受け入れ体制の充実等による観光推進事業の、倉吉市の 4,600 万円余の内訳。観光案内所運営業務委託、400 万円余の部分でございますね。 こちらについては観光協会様の方に業務を委託させていただいているものでございます。
委員	一番最初の観光協会さんへの補助金とは別でしょうか。
事務局	こちらもちゃんと調べてきちんとしたものをお返ししたいと思います。失礼いたしました。
会長	そういうことも含めて、ご質問等ございますでしょうか。他はいかがでしょうか。先ほど勉強会のところから大きな課題が並んでいました。いかがでしょうか。はい。
委員	質問というわけではなく意見として言わせていただきたいです。若い世代、私の娘たちが子育て真っ最中でして、倉吉は子育て支援でいうと県内でもよくやっていただいているのかなというところはあるんですけども、いかんせん仕事に関しては、やっぱり都会から U ターンで帰ってきても給料が安いとか不安定な状況があるということで、上の子は帰ってこないという状況がありますし下の子は米子に出てしまったというところがありまして、転職するのでも米子の方がいいかなみたいなことをつぶやいておりました。というのが非常に多くなっています。学校教育審議会でいいますと不登校の問題が大きい

	です。学び直しとか教育機会の確保とかいろいろ政府が考えて対策を打ってきていますが、実際に貧困家庭であればそこに教育を受けるところまでいかないとか、学び直しといっても持てるものを持っていないと学び直しも出来ないという実態があります。それから若い人たちでいきますと、倉吉市よりも北栄町とか湯梨浜町のほうが税金が安いというようなことをおっしゃったり、保育料の件でも倉吉より安いというようなことを聞きます。お金によって動くことというのはかなりあるかなと思っています。それから、家賃においても倉吉は東部西部に比べると割高だという話を若い人たちから聞きます。 　そういうところでいきますと、収入に見合ったものでどれだけ出て行くものが大きいかというと、中部は暮らしにくいみたいなところが実際にあるんじゃないかと思っています。私自身の立場で考えてみますと、実際に今中学校の部活なんかも成り立たない、小学校も１校では成り立たないというような状況の中で、中学校から高校進学するときに、東部や西部の部活で引っ張られるというような状況があって、倉吉から高校のレベルで出て行く子どもたちが非常に多いということが出ています。今全県で高校受験をしていきますので、中部で育って中部の高校に行くかというとそういうわけではないので、そういう実態もあります。その辺も考えないといけないと思いますし、北栄町さんが地域包括支援ケアシステムというネットワークを作っておられますが、倉吉もやっぱりそういう方向で行かないといけないんじゃないかということを感じています。行政の方も、私も行政の中でずっと働いてはいるんですが、なかなか縦割り行政の部分から離れられないという感想を持っております。自分でこれから事業を立ち上げるということを実際には考えているんですけども、地域労働者協同組合法でしたっけ、新しく法律が変わりまして、地域の中で協同組合、地域の課題は地域の中で解決していく方策として地域労働者協同組合というようなことをやって、利益の上がったものを福祉の方に回すというような循環を考えなければいけないのではないかと思っています。 　倉吉にしかない資源を、例えば山村入学であるとか、倉吉市内の中でも子どもたちは農林業とか漁業とか、そういう方面の体験がない子どもたちになってきていますので、相互に行ったり来たりするような体験型の何かが必要かなと思っています。 　いかにして循環を繋いでいくかということ、あと防災の関係で行くと地域の中の向こう３軒両隣っていう支援体制から、もう一つ自治公民館単位で地域の中の状況を皆さんがつかめる状態を作って、それをもう一つ大きい地区・校区とか地域に繋げていくという。地域の中のことを地域の住民がよく知っている、という状態を作っていくことが必要かなと思っています。大雑把に意見を申し上げました。

会長	他に皆さんいかがでしょうか。はい、どうぞ。
委員	すみません、今のお話を聞きまして、いろいろ思うところがあったので述べさせていただきます。私のところは二人、県外に出て就職してしまいました。やっぱり職場がどうしてもないということが第一です。上に関しては大学の時から県外に出ましたので致し方ないかなとは思いましたけども、下に関しては県内の大学に行かせていただいて、今年が就職だったんですけど、特殊な技術職なので今年は募集が出なくて、最終的に東京都の技術職を受けてそちらに就職という形で出て行きました。本人は県内が就職希望だったんですけども、募集自体がなかったということで、せっかく県内で大学まで出たのに県外に出てしまったというのが残念だなという思いもありました。先ほどからお聞きしていると、鳥取短期大学と看護大学とかの県内就職が 8 割とお聞きしましたので、皆さんやっぱり県内出身の方が多いというところもあるのかなというのと、残られた理由とかその辺具体的なところをもっと調査してもいいのかなと思いました。その後の動向で実際就職された後にそのまま県内に残られているのか、出られた方も中にはあるでしょうし、その辺も戻ってきてもらえる理由が見つかるんじゃないかと思って聞いていました。 それと、中部、鳥取で体験が少ないんではないかという話がちらっとありましたけど、中部の NPO 法人の方で、関西圏の修学旅行の体験受け入れとかを今年も 1,000 人くらいの規模で受けていて。今年はコロナで 1 件だけだったんですけど。コロナで県外の修学旅行が出来ないので、出来れば地元の子どもたちに来て欲しいという気持ちがあります。来られた方はまた修学旅行で交流を深めて、個人でもまた来られるということもございますので、そういう体験も含めて地元の子どもたちに地元への愛着を持っていただくような修学旅行に代わるような体験学習みたいなものを、倉吉市とかと連携しながら取り組んでいけたらと思います。子どもたちの愛着というものも、将来戻ってくるきっかけになるかと思っているので、具体的なところを考えていただけたらいいなと思います。
会長	ちょっと時間が迫ってきてますので、発言のない方は。
事務局	すみません、さっき質問があった琴浦町の観光戦略の成果について発言がありましたが、琴浦町さん聞こえますか。
琴浦町	聞こえます。先ほどご質問をいただいていました、令和 3 年度の観光マーケティングインフラ構築委託料、約 800 万円になりますけど、こちらの成果ということでご質問をいただいておりました。 今担当課の方に聞き取りを行って、簡単ですけどもご報告をさせていただけたらと思います。昨年度 AI ビーコンを導入いたしまして、スマホのデータを元に人の動きを AI を使って分析していくというような事業を行っております。

	それによって道の駅から町中の方への人の動きが少ないですとか、情報発信が弱いですとか、そういった琴浦町の観光戦略の弱い部分というものを分析いたしまして、今年度観光看板を必要な場所に設置したりですとか、情報発信の部分に専門員を配置したりということで、琴浦町の観光戦略の方に活かしているというような状況です。簡単ですけども聞き取りした内容は以上です。
会長	はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。じゃ、ちょっと。何もなかったらないで結構ですのでお願いします。
委員	はい。失礼します。最初の方にご説明がありましたが、中部圏域の人口増減の推移というのがありましたけど、北栄町の場合はこの半年で自然減が多かったのもありまして人口は減っているんですけども、世帯数は増えているんですね。ここで世帯数に関して書いている項目がないのかなと思ったんですが、やっぱり人口を見ることも大事ですし、出生率も大事ですけど、一昔前と違って新生児死亡率、赤ちゃんの死亡率がかなり少なくなっていますから、そこをも大事ですけども、世帯数を増やすことの方が大事じゃないかなと思います。
会長	一人世帯とか二人世帯とか。世帯数が増えているわけですね。人口は減っている。他にはどうでしょうか。
委員	はい。先ほどより若い人が湯梨浜町に転入されている傾向があるということなんですけど、確かにそれはあるんですが、それは羽合地区の一部に集中していまして、羽合小学校は 550 人を超してまた教室を増やさないといけない状態です。一方私は旧泊村地区に住んでおりまして、こちらでは人口が減少していて、特に少子化が問題になっていまして、来年度小学校に上がる子が 10 人くらいになってしまいます。湯梨浜町全体で考えるよりも、過疎地域をどうするかというのがこれから重要になってくると思います。湯梨浜町では住宅取得の補助をやっているんですけど、過疎地域に住宅を取得される方には、通常の補助金に上乗せして補助をするような制度も設けておられるので、過疎地域を大切にしていく姿勢を出していきたいです。行政にとっては人口が集中する方がインフラ整備とか行政効率はいいんだと思うんですけど、これから過疎地域・限界集落が多くなっていくので、そういうところにも目を配っていただきたいと思っております。以上です。
委員	やっぱり人口の問題が一番大切なんだということを再確認させていただいたところでございますし、皆様の意見を聞く中で、やっぱり私自身も含めて皆様も、それぞれどういう施策があるのかとか、先ほど言われた税金の話なんかも、各町でどうなっているのかとか、噂のような感じでしか理解できていないと思います。いい機会なので皆さんが分かりやすい資料を作れば、一つで

	もモヤモヤしたものが解決するんじゃないかなと思いました。以上です。
委員	先ほど皆さんからお話があった中で、ケーブルテレビを取り巻く環境の中でも、やはり放送を通じた発信ということで、いろいろコロナ禍ということもあって変化が問われております。その中で、今ケーブルテレビの番組をアプリを通じて全国に発信できるようなプラットフォームが出来ているようなところがありまして、例えば先ほどの地元への愛着やつながりといったところの発信に繋げていけたらというところがあります。それからもう一つが、先ほど世帯数の話があったんですけども、高齢者の見守りの実証実験をしております。そういったようなところで、地域の企業ならではのサポートとかをこれからもオンラインを含めて、技術的・制度的なハードルがあるんですけども、これからどんどん挑戦していきたいという風に思っております。以上です。
会長	楽しみにしています。副会長いかがですか。
副会長	人口減少の話が出ていましたが、人口減少は日本全体の問題であり、減少率は地域差があるので、各地域の減少率を比較した方がよいと思います。 高校生が大学に進学し、大学卒業後の帰省率は、10 年前と比較すると私の周りでは増えていると思います。一方、地元の中学生が東部西部、あるいは県外の高校に進学する割合は増えています。 大学卒業後の帰省率の増加は、高校の先生が地元の危機感とか衰退を理解されて、従来は受験勉強だけだったものが、地元の体験学習が増えたことで、子どもたちの地元に対する愛着感が増えたためだと思います。卒業後の帰省地は、倉吉や中部地区だけではなく、鳥取県内全てを含んでのお話です。 先日、日本女性会議が倉吉で開催されましたが、複数の高校生チームが「未来創造コンテスト」で地元の課題を考えながら、自分たちがどのように理解して、何をすべきかを発表しました。従来はこのような機会がなかったので、こうした活動を通じて徐々に地元への愛着感が増加していくのだと思います。
委員	すみません、初めてでちょっと勉強不足のところがあったんですけど。私の周りでもいったん中部に就職したけれど、また都会の方に行ってしまうとか、一度県内に勤めても辞めて県外に就職するということを結構聞くようになりました。やはりなかなか都会の方は田舎暮らしだとか体験を希望される反面、こちらの子どもはやっぱり都会に憧れるという気持ちがあって、なんとかこちらにまた戻ってきてもらえるようなことを我々としてもいろいろやっているんですけど、やはり発信不足でまだまだ皆さんに知られていない部分がありますので、もっと発信をしなければいけないという風に思いました。 それと、我々の方ではライフラインテーマといって、山間地域に…やってい

	るんですけど、やはりなかなかうちだけの力では運用していくのは難しい状況になっています。ここに店がなくなったら困るんだという地域の方がいて、困っている状況なんですけど、そこを市町の方でなんとかそういうものがないのかなという風に考えています。市民としてあまり倉吉が何をやっているのかなということを知らなくて、今回倉吉市ってこんなことをやっているんだなということを知ったんですけど、他の町村を見るといろんなことをやっておられて、倉吉なんて何もしないんだなと思っていたんですけど、今回手伝わせていただきましていい勉強になったなと。後はもっと自分たちも発信していかないといけないと思いました。以上です。
委員	失礼します。私も情報発信が大事かなと思いますけども、私自身が退職してから情報が入らなくなってしまいまして、いろんなことが分からない毎日が続いているんですけども。都会に憧れて出ても、やっぱり田舎がいいなと思っている人も結構いるんじゃないかなと思います。鳥取県は大山というすごい山が私たちを守ってくれていると思うんです。地震がありましたけども、本当に素晴らしいところだなと思います。これをどんどん情報発信していく上で、発信の仕方も今の世代に向けた形でやっていけば興味を持ってくれるんじゃないかなと。一つ思うのは、県が整備した梨園があると思うんですけども、そこがかなり高齢化していて、整備をする方が少なくなってきていて。どんどん梨の木を切っていかないといけない状況になっていると。特産のものを主導出来る方も少なくなっていっちゃうと思います。そういった方をうまく使う、例えば 3 年農家になると家もつきますよとか。そうやって特産品を繋いでいきながら、そこに住んでいただくみたいな方法もあるんじゃないかなと思っています。梨の木がどんどん切られていくのは本当に辛いと思います。そういった農業も含めて、魅力あるところを再発信して行く方向を確保したらどうかなと思っています。
会長	ありがとうございました。申し訳ないのですがこの会、年に 1 回しかやらないので、そこであったのを上手に事業に形として組み込んでこちらに出来るようにしていかないといけませんので、そのあたりは取り組んでいただきたいと思います。 例えば鳥取看護大学は県内出身者が 70％弱、就職する時は鳥取県に 90％近く就職するような、そんな仕掛けを作っています。 何かありますでしょうか、もう一つ。共生ビジョンの一部変更について事務局説明お願いします。
7. 鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの一部改正について	
事務局	すみません、事務局から最後手短になんですが、資料の 7 なんですけども。定住自立圏共生ビジョンの一部変更についてのご提案でございます。資

	料 7 の裏面、赤枠で囲ったところでございますが、県立美術館を活用した広域周遊滞在型観光地創出事業というものを追加させていただきたいと思っております。この文章自体が新たに県立美術館が鳥取中部のエリアに出来ますので、これをうまく使いながら観光事業を創出していきたいというものになりますが、具体的には金額を載せている内容として、図書館の左側といいますか、駐車場を整備するようにしておりまして、まずはその予算を有利な財源を取っていくために計上しているものでございます。ただ、文章としては幅広に書いておりまして、今後県立美術館を利用した周遊型の観光事業というのが出てくるだろうということを見越した文章にしております。説明は以上でございます。
会長	冒頭にありましたように、この事業にうまく乗っている 8%くらい、上手に乗っていきたいというところですね。よろしいですね。 こういう事業なので、皆さんにいろんなアイデアがあったら出していただけたらいいなと。ただし、倉吉と他の町が連携しながら協定を結んでと。 じゃ、以上ですが最後に何かありますか。いいですか。それでは今日はありがとうございました。第 4 回定住自立圏ビジョン懇談会を終わりたいと思います。ありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。